



改修した山門を前に法要を営む橋本英樹住職ら

# 山門改修で伽藍整う

## 分院・飛び地の観音開眼も

曹洞宗見性院

檀家制度を廃止したことで知られる埼玉県熊谷市の曹洞宗見性院は20日、山門改修落慶法要を厳修した。橋本英樹住職は「住職人生の前半の集大成である伽藍整備が一段落を迎えた。ここまでこられたのは、支えてくれた多くの方々のおかげだ」と話した。

戦前に建てた山門は今回の改修で新築同様となった。橋本住職を中心に仏教界の改革を志す僧侶有志でつくる「善友会」の会員らが随喜した。併せて新寺院僧侶控室落慶法要、分院の専念寺

の十一面観音菩薩開眼供養法要、観音堂十一面観音菩薩開眼供養法要、寺族忌法要を営んだ。境内墓地の空きが少なく、今後、分院の専念寺と飛び地境内の観音堂の墓地造成が進むことから、墓参に来た人が参拜できるよう、それぞれに十一面観音菩薩像を建立することを決めた。

橋本住職は「今年三回の改修で新築同様となった。橋本住職を中心に仏教界の改革を志す僧侶有志でつくる『善友会』の会員らが随喜した。併せて新寺院僧侶控室落慶法要、分院の専念寺

法要後、来賓の野中厚・農林水産副大臣ら参列者一同で記念撮影をした。橋本住職は「本日は

ご多忙の中、日本一暑い町・熊谷にお越しく下さり感謝している。見性院は熊谷空襲で伽藍が全焼

したが、先代と2代で何とか復興することができた。今後は見性院、専念寺、観音堂の護持発展に

全力を尽くす。加速度的に発展させて周囲を驚かせたい」と話した。

(奥西極)